

歴史博物館開館



市立総合博物館をリニューアルした「上越市立歴史博物館」が、21日オープンしました。

この博物館は、上越市にあった中世の越後国府に始まる越後の都の変遷を、実際の資料のほかプロジェクションマッピングなどのデジタル映像を随所に使って紹介しています。

中世までの上越の歴史は埋蔵文化センターで、それ以降の歴史はここでいうコンセプトのようで、常設展示は、「越後の都」「雪国のくらしと民俗」など5つのテーマで構成されています。

教科書等ではあまり詳しく触れられていないふるさとの16世紀以降の歴史を学ぶことのできる施設として、親子づれなどに人気が出そうです。

また、1階部分と新たに開放した3階

の屋上展望デッキは入館料なしで入ることができます。展望デッキからは妙高山や南葉山、高田公園の内外堀などを眺めることができ、飲食物を持ち込んで楽しむこともできます。特に、観桜会の時期には公園内の桜を高い視点から自由に観賞できます。

今回のリニューアルの総事業費は約5億3000万円です。このほかにも、これまで西側新館で展示されていた小林古径の作品を展示するため、隣地に新しい美術館を建築する計画もあり、こうしたお金のかけ方には、市民の間から「こんなにハコモノをつくってよいのか。まず、日々の暮らしに回してほしい」という声も出されています。

なお、昨年購入を断念した国宝の刀剣は、購入計画の際に「歴史博物館の展示の目玉」との触れ込みでした。その「目玉」が無くなっても展示に影響はないのでしょうか。また、市民への説明は十分にされたのでしょうか。(刀剣を展示する予定だったガラスケースには他のものが展示されています。)

寺院が総合福祉施設に

厚生常任委員会行政視察



橋本議員が所属する厚生常任委員会は11、13日、石川県小松市で障害者更生施設や授産施設を運営している社会福祉法人の取組、愛知県豊田市の「低炭素なまちづくりの推進」、長野県松本市の

「松本ヘルス・ラボと健康パスポートクラブ」について、行政視察を行いました。このうち、石川県小松市での視察について、橋本議員から話を聞きました。

小松市では、社会福祉法人が中心となって、地域住民とともに廃寺の再生に取り組み、様々な

福祉の拠点にしている施設を中心と視察しました。内容は、障がい者の就労支援、生活介護、高齢者デイサービス、放

活ができる施設が無かったことから、「知的障害児入所施設」として再スタートし、現在は130ほどの事業をしています。

課後等デイサービス、児童発達支援などです。

もともと児童の入所から始めたのですが、18才になると児童入所施設から出なくてはいけない

この社会福祉法人は、ある寺院の住職(現在の理事長の祖父)が戦後帰還して始めたとのことです。

大人の入所施設をつくったこと、日中仕事ができる人の施設や、仕事ができる人向けの介護施設をつくり、さらに利用者が高齢になるにつれて高齢者サービス事業も始めたとのことです。

当地は、富山や福井と違い戦災にあわなかったが戦災孤児が多かったが、彼らを預かり本堂で寝泊まりさせたのがスタートとい

結果として、すべての世代に対応できる総合的な福祉施設になっていて、利用者にとっては安心して利用できる施設です。それを運営していくにはたいへんな苦勞があるのではないかと思います。

その後、障がいのある子どもたちが生

た。

日本共産党上越市議員団ニュース
No.597 2018年7月29日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
先 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)